

令和3年度 第1回府中市子ども家庭支援センター運営会議 会議録

- 1 日 時 令和3年8月4日（水曜日） 午後2時から午後4時まで
- 2 会 場 Webex Meetings（オンライン会議システム）
および 府中市子ども家庭支援センターミーティングルーム
- 3 出席委員 西郷会長、水野委員、山口委員、大伴委員、石井委員、遠藤（恵）委員、成川委員、田中委員、佐藤委員、大神田委員、若山委員、遠藤（綾）委員
- 4 欠席委員 橋本委員、東浦委員、國廣委員
- 5 出席職員 （子ども家庭支援課）向山課長兼子ども家庭支援センター所長、石田課長補佐兼母子保健係長、伊藤相談担当主査、縄稚事務職員、高久事務職員
（社会福祉法人多摩同胞会）寺嶋子ども家庭支援センター長、豊富係長
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 議 事 (1) 開会
(2) 府中市子ども家庭支援センター運営会議の目的・進め方
(3) 議題
ア 令和元年度・令和2年度府中市子ども家庭支援センター事業実績
イ「たち」交流ひろばの更なる活用のための意見交換

8 議事録（要旨）

○事務局

まだ参加されていない方もいらっしゃるのですが、定刻となりましたので、ただ今より、令和3年度第1回府中市子ども家庭支援センター運営会議を開始いたします。

ご出席の皆様におかれましては、ご多用のところ、本会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。今回は初のウェブ会議システムを利用した開催ということで、不慣れではありますが円滑に進行できるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

会議の開催にあたり、事務局より皆さまに3点お願いを申し上げます。

まず1点目ですが、この会場についてです。市の職員より選出されている委員の方と私共事務局は、現在「たち」のミーティングルームに集まり、マイクとカメラを共有し、ウェブ会議の画面をスクリーンに投影する形で参加させていただいております。リモートで参加されている方からは、会場の発言者が見えづらいことがあるかもしれませんが、当市のウェブ会議用端末の台数には限りがあるため、ご理解くださいますようお願いいたします。

次に2点目ですが、リモートで参加されている委員の方へのお願いです。会議中他の方が発言されている時は、ミュート、マイクをオフに設定していただき、ご自身が発言する場合には、ミュートを解除してご発言ください。また、ビデオは通常オンに設定していただきたいのですが、接続状況により音声途切れのような状態であれば、オフに設定していただき音声を優先していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

3点目ですが、後日本会議の議事録を作成するため、ウェブ会議の録画をさせていただきますことをご了承ください。

それでは初めに、事前に送付しております資料の確認をさせていただきます。

(配布資料の確認)

なお、本会議の傍聴についてですが、府中市附属機関等の会議の公開に関する規則により、「広報ふちゅう」等で周知・募集致しましたが、応募はございませんでした。また、本日の資料及び議事録につきましては、本市のホームページ及び市政情報公開室等において、後日公開いたしますので、ご了承ください。

次に、本会議の開催にあたりまして、子ども家庭支援課長兼子ども家庭支援センター所長より、ご挨拶申し上げます。

○事務局

皆様、こんにちは。皆様には日頃より本市の子育て支援事業の実施にあたりまして、に多大なるご協力を賜り感謝申し上げます。また、本年度最初の運営会議になりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。さて、本日は令和元年度・令和2年度府中市子ども家庭支援センター事業実績、それから子ども家庭支援センター事業進捗状況及び自己評価について報告をさせていただき、皆様方が感じた各事業に関するご意見などを頂戴したいと思っております。特に令和2年度につきましては、コロナ禍の影響を大きく受けた年度となりますが、感染予防対策を実施したうえで縮小しながらの実施となりました。サービス等を必要とする方へは最小限答えられたと感じております。それでは、本日は限られた時間ですがよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。

○事務局

また、本会議の会長については、長く委員をお勤めいただき、従前より会長をお引き受けいただいております、子ども家庭福祉研究・研修機構長の西郷泰之様をお願いしたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

また本日は初めてお会いする方もいらっしゃると思います。恐れ入りますが、皆様より順番に自己紹介いただければと思いますので、資料1「委員名簿」をご覧ください。なお、委員名簿4番橋本委員、10番東浦委員、及び15番國廣委員から欠席のご連絡をいただいております。では委員名簿の順番で会長よりお願いいたします。

(会長及び各委員より自己紹介)

○事務局

ありがとうございます。続いて事務局からも自己紹介を、子ども家庭支援課長から順番にさせていただきます。

(各職員より自己紹介)

○事務局

それではこれより先の進行につきましては、会長をお願いしたいと思います。

○会長

それでは議題に沿って進めていきたいと思ひます。では、早速ですけれども議題1へ入っていきたく思ひますが、議題の前の次第2について説明がありますか。

○事務局

はい、次第2「府中市子ども家庭支援センター運営会議の目的・進め方」についてご説明いたします。子ども家庭支援センター「たち」は、子育て家庭の相談の場として、相談内容に応じ、子育て支援サービスの利用援助及びあつ旋、子育て支援関係機関との連絡調整などを行っております。また、交流の場として、親子が自由に交流できる「ひろば」の提供や、さまざまな情報を提供する場として、また、お子さん自身が相談できる場としての機能を持った、子どもと家庭を支援するための中核施設です。開設から16年が経過し、子育て家庭のニーズが多様化していること、また感染症拡大の影響を大きく受ける中で、子育て家庭にとってさらに利用しやすく、より身近な施設となるべく、様々な分野でご活躍されております委員の皆様から、異なった視点でご意見を頂戴し、今後の子ども家庭支援センターの運営に活かしていきたいと考えております。説明は以上でございます。

○会長

ありがとうございます。ここについて何かご質問等あれば、初めての委員の方もいらっしゃると思ひますので、お受けしたいと思ひますがいかがでしょうか。

(質問なし)

大丈夫ですかね。それでは、議題のほうに入っていきたいと思ひます。議題(1)令和元年度・令和2年度府中市子ども家庭支援センター事業実績についてご説明をお願いします。

(事務局より資料説明)

○会長

それではご説明をいただきましたので、皆様の方からご質問ないしはご意見を頂こうと思ひますけれども、いかがでしょうか。

○委員

総合相談事業というのがありまして、前年度よりも相談件数が3割増加ということで大幅に増加しているのですが、やはりコロナの関係でそういう養育相談事業が増えたということでしょうか。それともう一つですね、育児支援家庭訪問事業の中で「学生訪問員を確保した」というのがあるのですが、こういう取り組みというのは前からやられているのですか、府中市では。以上2点、よろしくお願ひいたします。

○事務局

相談件数が増えたことと新型コロナウイルス感染拡大の状況が関係しているかということは、は

つきりとは言えないのですけれども、在宅ワークや外出できない状況など、家族で過ごす時間が増えたことにより、夫婦喧嘩が増えて、夫婦喧嘩を子どもに見せると心理的虐待にあたるという、そういった通告はかなり増えてきております。他の相談に関しても年々増加傾向にはあるので、子ども家庭支援センターが通告先、相談窓口として周知されてきているということも相談件数増加の理由として考えられます。

もう一つのご質問の育児支援家庭訪問事業の学生の訪問員については、以前から取り組みをしております。昨年度当初は学生訪問員の登録がゼロの状態、学生訪問員に依頼したいケースがいても依頼できない状況となっており、新たに募集を行った結果、3名の学生さんにご登録いただくことができ、実際に支援にあたっていたいております。

○委員

わかりました。ありがとうございました。

○会長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

○委員

いいですか。「ころりんクラブ」等の交流会の件なのですけれども。今回はコロナで回数が減ってしまっているというのは分かるのですが、毎年のことなのですが、情報の周知とういうのが十分になされていないというのを聞いています。要するに「知らなかった」とおっしゃる方がとても多くて。市のホームページに載せるとかの方法だけではなく、0・1歳の保護者に届けるように、発信の方法をもう少し踏み込んでやってもらいたいというのが一つ。それから、この「ころりんクラブ」というのは、今このご時世なんですけれども、往復はがきでの申し込みなんですよね。せめて電話とかメールとか、もう少し申込みしやすい方法を検討していただけると有難いなと思います。それから、「コロナがちょっと怖くて出てこれないよ」という保護者も割といるので、オンラインでの開催というのでも検討していただけると有難いなと思います。

○会長

ありがとうございます。どうでしょうか、アイデアをいただいたということで、ご担当者としては。

○事務局

はい、ご意見ありがとうございます。「ころりんクラブ」の周知については、いろいろご意見を頂いて、市のメール配信を使い始めたりとか、対象年齢の方に伝わるように保健センター母子保健係の方にチラシ配布をお願いしたりといった感じで、大々的にはいかないのですけれども、細々とですけれども、少しずつ道を開拓しているという状況でございます。また往復はがきについては、その存在さえご存じない方もいらっしゃるし、検討をしているところではございますが、窓口での申し込みという選択肢も増やすというところで、そこはまだ継続して検討する必要があると考えております。オンラインでの実施というの、内部ではいろいろ話をしているところなんですけれども

も、今後引き続き検討が必要だと思っております。ご意見ありがとうございました。

○会長

はい。ありがとうございました。よろしいですか。では、もう一人いらっしゃいましたよね？

○委員

今の方とも関連したことが一つあったのですが、家庭への周知の仕方というが大変難しい時代ではありますけれども、相談できる場がないと思って困っている保護者の方、お母さんというのが大変多いのではないかという風を感じております。また、小さい0歳・1歳のお子さんだけではなく、既に就学しているお子さんも、かえって子どもが家に居られる年齢になっていることによって、何か学校に行きたくない理由とかそういうものはっきりしない子達が、親は働きに出ているとか何らかの事情で家には居ないのだけれども、学校には来ていない、そういった例が多くみられると思います。専門の訪問員の方、それから学生さん等が家庭訪問をして心を開くというのは非常に難しいこととは思いますが、やはりたちさんからの訪問というのは一番やりやすいというか、身近に感じるところではあると思いますので、その辺りの取り組みを具体的なものがありましたら教えていただくと有難いなと思いました。例えば、定期的に月に1度や2度訪問するといったこともあるのでしょうか。その点についてお願いします。

○会長

では、様子を教えていただきたいということですが、どうでしょうか。

○事務局

学校に行きたくないとか、不登校に関する問題については、直接保護者から相談が入ることもありますし、あとは学校の先生の方からこちらの方に相談が入ることもございます。学校からたちへ繋いでもらって保護者の方と相談したり、保護者経由でお子さんへのアプローチを考えたりしております。また、教育センターのスクールソーシャルワーカーと連携しながら対応しているケースもございます。育児支援家庭訪問を必要とする、そういったケースについては、学習支援を入れる形で対応する場合も中にはございます。関係機関といろいろ相談をしながら対応しているのが現状でございます。

○会長

はい。よろしいですか。

○委員

はい、ありがとうございます。関係機関といろいろ連絡を取り合って対応されているのが分かって大変有難かったです。これからもよろしく願いいたします。

○会長

はい、ありがとうございました。私もお話を伺いながら、一つ前に戻るのですが、「ころりん

クラブ」のPRの件ですけれども、乳児家庭全戸訪問事業の時、あの時は情報がものすごく一杯提供されるので、お母さん方も一杯あって何が何だか分からないと覚えることもあるかもしれないですけれども、そういう機会に情報提供するという事はされているのですかね。

○事務局

はい。本当に会長が言われたとおり、かなり情報量が多いというところと、この「ころりんクラブ」が募集を行っているときに、年3回ということもありますので、全員周知が難しいところでしたり、タイミングがうまく合うかどうかというところで、ちょっとこちらの方は個別でご案内はしていないような状況でございます。

○委員

新生児訪問に行かせていただいておりますが、私たちは情報を伝えるという形で訪問に伺っています。市の事業や、健康管理を主としている保健センターの事業は、しっかり一覧表になってわかりやすい状態でお母さんたちに提供できます。たちの「ころりんクラブ」についても、何月と何月にあります、対象が何日ですといった計画表があれば、お母さんたちに置いてくる事が出来ます。自分がその頃になったときに「行きたいわ」なんて思う気持ちがあるのかなと思います。初めての子育ては引きこもり傾向のお母さんが多い様に思います。昨年から保健センターで、「ちょっと育児が楽になる講座」を、3・4か月児のお母さんを対象として全4回の構成で、仲間づくりを目的に行っています。講座終了時に「この講座があるから外出することができ、仲間ができて良かった」という言葉を多くいただきます。たちの事業も、ぜひ新生児訪問で提供したいと思います。また、今新聞をとっていらっしゃる方が多いので、広報誌というものが手元にないので、訪問の時に広報誌を持参しています。「こういう形で電話をかけて申し込みができるんですよ」という話をし、まず広報誌を見て府中市のことを知ろう、というところもお伝えしています。情報を頂ければ、私達も協力したいなと思います。

○会長

ありがとうございます。関係者が揃ってましたね。皆さんの連携で、より適切な支援が適切な方に届くようになっていけばと思いました。他いかがでしょうか。

○委員

保育園には地域の方向けの掲示板みたいなものがあるのですが、うちの保育園でも掲示板を使っていて、よく地域の方がご覧になっていて、そこで情報を収集される方が多いので、そこもたちの情報提供の場として利用したらどうかなと話を聞いていて思いました。参考意見として話させていただきました。

○会長

ありがとうございます。確かに、何重にも網を被せないと、1枚の網だけでは上手く把握ができないということはありますよね。ありがとうございます。他の項目でも構いません、今の関連でもいいですけど、よろしいですか他の方は。ご質問でも構いませんし。

○委員

先日、要保護児童対策地域協議会にも出席させていただきましたですね、そちらの方でも発言させていただいたのですが、昨年度は、やはりコロナが影響していると思うのですが、在園児の家庭の虐待についての情報がとても多く入るようになって、本当にびっくりした1年でした。それがコロナの影響によるものなのかどうか、絶対的な要因ではないのかもしれないですけども、やはりこうして事業の業績を見ていると、コロナだから数値が増えているものと、逆にコロナだから外出ができなくて訪問の回数が減っているということも十分考えられるのではないかなと思っています。そして虐待についてなんですけれども、こうした色々な活動を見させていただくと、交流ひろばがあつて、リフレッシュの事業があつて、育児支援家庭訪問の事業があつてと、いろいろな所で情報交換をできる機会があれば、虐待にいく一歩前のところで止められるケースが多々あるのではないかなと感じました。あと、こういった家庭訪問の事業の数字ですけども、いらっしゃる方からどれくらい細かい情報をとるのかわからないのですが、例えば母子家庭が多いとか、テレワークをしている家庭が多いとか、具体的にそういったことがある程度把握できているのであれば、そういったこともわかると私達も保護者の家庭環境がわかりますので、そういったことのニーズというのかな、そういったものをお伝えする機会が増えてくるのではないかなと感じました。ですので、登録するときいろいろな方々から情報を得ると思うのですが、もう少し細かい情報がこの実績報告上にあると、そういったことが相談に繋がっているのだなという風に結びつけることができるのではないかなと思います。

○会長

はい、ありがとうございます。1つだけ、お話の中にご質問があつて、利用者情報についてはいかがでしょうか。

○事務局

育児支援家庭訪問事業で増えているものが、早期支援ということで妊娠中からの支援というのを母子保健係と連携して力を入れてやっております。若年の妊婦さんや精神疾患をお持ちの妊婦さん、そういった方々を早期に妊娠中から支援をして、出産後に母子保健の新生児訪問に行っていただいて、その後継続して同じ助産師さんで育児支援家庭訪問に切り替えて継続して支援をしてもらっているケースが多いです。母子家庭や親に精神疾患がある家庭について、統計はとっていないですが、感覚的な所では多いかなと捉えております。

○委員

ありがとうございます。

○会長

はい、それでは他いかがでしょうか。

(一委員の会議システムにマイクが接続されていないためか、発言ができないことを確認)

それでは、回復を待ちながらですけど、もし皆さんの方から追加がなければ、2点ほどちょっと

教えてください。1つは、1番の報告の中にありましたけれども、「子育て世代包括支援センターとして」と書いてあるのですが、府中市の場合は子ども家庭支援センターがイコールなのか、ないしは保健センターとの連携型なのか、その辺りを教えていただけますか。

○事務局

子育て世代包括支援センターは母子保健係と子ども家庭支援センターの連携型で実施しております。

○会長

はい、ありがとうございます。では2点目は、虐待防止マニュアルを改定されたということですが、府中市のマニュアルのベースはどこのマニュアルなのでしょう。全く皆さんで開発されたのでしょうか。その辺りが私も忘れておりますので教えてください。

○事務局

府中市子ども家庭支援センターが独自で作成したものになります。

○会長

ありがとうございました。なかなか独自作成って、無くはないですけど、どこでもやっている話ではないので素晴らしいと思います。最後に、毎回申しあげて申し訳ないんですけど、評価が3とか2とかになっているのは、それはそれで理解できる数字ではあるんですけど、やはり何か評価基準が必要。数値目標があるので、それはそれで評価基準として使えるとは思いますが、でも数値目標が満たされたから評価基準として丸だよという話にはならないものもあったりします。それで、中々一週に作るの難しいので、別に来年からこうしてよという話では全くないんですけど、ただそうは言っても、評価基準を作らないと何となくの評価で、良かったような感じがするといった客観性のない評価になったりするんで、まあKPIなどもよく言われますけども、何らかの、全て総合的に事業ごとに評価するのは無理だと思うので、一定の基準を参考に評価をしていくという方法もあるので。例えばたちの交流ひろば、利用者のアンケートをとっていらっしゃるようなので、利用者のアンケートのこの項目がこれだけ上がるとかですね、そういう具体的なものでも十分評価基準になると思うので、具体性がもう少し、全てに具体性を求めるのは難しいですけども、もう少し具体性を出せる項目も、事業もいくつかあると思われるので、そこについては来年度に向けてチャレンジをしていただけるといいかなと思います。利用者による評価というのは、とても重要なキーポイントだと思います。

では、皆さんよろしければ、今日は議題がもうひとつありますので。そちらに移らせていただきますが、よろしいでしょうか。では、議題2の「たち」交流ひろばの更なる活用のための意見交換のご説明、趣旨の話になるかと思えます。よろしく願います。

○事務局

はい。(2)「たち」交流ひろばの更なる活用のための意見交換について説明いたします。

先ほど(1)の議題の中で説明させていただきました通り、「たち」交流ひろばの利用者数は平成30年度以降減少傾向にあり、昨年度からは感染症対策のため、利用制限を設定して開所しておりますので、利用者数としては大幅に減少しております。利用者の方からは「ゆったり安心して遊べる」等好評も頂いておりますが、中には「事前予約が必要では利用しづらい」等のご意見も頂戴しております。今後の交流ひろばの更なる活用について検討していくため、委員の皆様から広くご意見を頂戴できればと思っております。現在行っている事業内容の改善点、または新たにこのような取り組みを行ったらどうかなど、自由にご意見いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございました。では、皆さんのアイデアをいっぱい頂きたいということですので、どなたからでもお願いしたいと思っております。

○委員

このために「子育て会議」としても一度会議を開いて、この議題で意見をまとめてきました。私達「子育て会議」というのは、民間の子育てひろばとかサークルとか、あと助産師会さんもいるのですけれども、いろいろな団体が集まって、月に1回連絡会として情報交換をしている会です。私も含めてひろばやサークルをやっている人達は、実際にお母さんたちと直接会う機会が非常に多いので、たちの交流ひろばを利用するお母さんたちからの意見もたくさん聞いています。それで、何で子育て会議で事前に意見をまとめたかと言うと、今日の会議の資料では、ひろばのアンケートについて良いことばかり書いてあって、意外だなと思ったのですが、辛辣になるのは良くないのですが、たちの交流ひろばについては良い意見を聞いていないので、是非それを伝えて、もっとこうの方がいいのではという提案をしようと思って、まとめてきました。

まず、さっきの事前予約についてですけど、地域子育て支援センターの「はぐ」とか他の子育てひろばでも事前予約はやっているのですが、当日とか前日まで受付けています。けどたちの交流ひろばに関しては、「1週間前に」予約が必要で、1週間後の午前か午後1枠のみという、非常に限られた、そして予約のしにくい方法が採用されておまして。特に0歳児のお母さん達は1週間後の、例えば来週の火曜日の午前中といっても、お子さんの体調がどうか分からないですよね。なので、とても予約がしにくい。できれば、空いていれば当日とか前日のキャンセル待ちで、前日でも予約できるようなシステムにしてもらいたいという意見が非常に多く聞かれました。逆に、しらとりは予約無しですよね、当日ふらっと行っても利用できる。場所の問題もあるので、たちがそれをしてしまうと、利用者が殺到して大変なのは分かるのですが、せめて1週間前の予約ではなくて、前日予約の採用をお願いしたいなと思っております。

それと、交流ひろば自体なのですが、とっても広いので、走り回ったりする年齢であれば嬉しいですけど、0歳でゴロゴロしているような年齢の場合には、お友達がいないととても寂しいです。ポツンとしてしまう感じで。いま利用制限していることもあるので、なかなか友達が作り辛いとか、スタッフの方ともお話がし辛いという声も結構あって、交流ひろばに行ってもより孤独を感じて挫けて帰ってくる、という話も良く聴くので。例えば、子育てボランティアとして、私たちも、子育て会議のメンバーもやる気は満々なので、スタッフとして、話し相手として人員を増やしてもらおうと

か。あとは月齢別、例えば0歳1か月から6か月までの日、1歳の日、2歳の日とかテーマを付けてやってくれると、集まりやすいのかなと思います。それから、テーマも月齢や年齢だけでなく、例えば多胎児の日、双子ちゃんはお出かけするのも大変なので、多胎児の子たちが屋内で安全に遊べるスペースを提供する日を月1回作るとか、あとは発達にちょっと不安がある子たちが屋内で自由に走り回れるようなスペースとして1日提供するとか、そういったテーマのある日をぜひ作ってほしいという意見もありました。ずっと喋ると2時間ぐらい喋ってしまいそうなので、とりあえずここで一旦終わりにします。どうでしょうか。

○会長

ありがとうございました。どうでしょうかというのは、お答えというか、受け止めに聞いた方がいいでしょうか。

○委員

そうですね、対応してほしいなと思って。お願いします。

○会長

ではご担当の方の受け止めをお願いします。

○事務局

まずは貴重なご意見をありがとうございました。課題でもあると思いますし、様々な家庭がいらっしゃるの、誰もが利用しやすいとか、先ほどの話にあったように“独りぼっち”ではつまらないと思うので、楽しく遊べるひろばになっていくのが好ましいかなと思っています。今の段階でどうこうというのは言えないのですが、まずは貴重な意見として、実際にやれるのかどうかとか、市の課題として持っているものと照らし合わせながら、より良い方向に行けるように検討してみたいと思いますので、はっきりとしたお答えではないのですが、貴重なご意見として頂きたいと思います。

○会長

はい、ありがとうございました。せっかく話し合いまで持たれて、今日発表されたことがメインだとは思いますが、それ以外も含めて簡単にメモをまとめてペーパーでも出されたらどうですか。

○委員

そうですね、それをやろうと思っていて気づいたら今日だったので、ちょっとできなかったです。これからまとめて提出はしたいと思っています。

○会長

わかりました。でも私も予約のことについてとか、多胎児とか、発達に懸念がある方とか、月齢ごととかいう話も実現可能だと思いますし、ボランティアとして市民の方たちが協力していくというのもとてもいい話だと思います。ありがとうございました。では、他の皆さんいかがでしょうか。

○委員

赤ちゃん訪問をしていて、まずは表に出てみましょうというときには、やはり一番は「はぐ」をお勧めします。はぐは少人数なので目が疲れにくいとか、初めてお出かけするお母さん達にはちょっと気持ちが楽かなと思います。慣れてきたら、電車に乗ってたっちまでどうですかとご案内しています。子育てひろばに行くお母さんたちは「同じ状況のママに出会いたい」という気持ちがまず第一だと思います。そこで、テーマを決めるというのは、ますます行きやすくなるだろうなと感じました。多胎児の日だとか、6ヶ月までの赤ちゃんの日だとか決めてもらおうと、わくわくしてお出かけされるのだと思います。

○会長

はい、ありがとうございます。初めて親になるという方が今は圧倒的に多いので、そういう方たちが、それぞれご自身の子育て上の悩みが共通している方同士で会うと話も弾むし、いい情報交換にもなりますよね。ありがとうございます。他いなかでしょうか。

○委員

よろしいでしょうか。今の話に関連しまして。私たち民生委員もしらとりの方には支援に入ることがあります。しらとりのイベント、お誕生日会などの日には民生委員が分担して入っているのですけれども、そういう意味で、たっちの方でも民生委員が協力できるところがあるのではないかなと思いました。それから、私も今の考えには同感の部分がありまして、今非常に何というか、小さい時からちょっと課題を抱えている子とか、そういうお子さんも非常に多いと思います。その最初のお母さんのそういう不安の持って行き場というのが中々無いのではないかと思ひまして、そういう時に、そういう所で遊びを通して子どもを見たりとか、適当な助言者がいるとか、そういう所は母親にとっても、すごく安心できる場ではないかなと思ひましたので、ぜひたっちの方でも進めていって頂けるといいのではないかなと思ひました。よろしくお願ひいたします。

○会長

ありがとうございます。多摩地域のある市では、何となく座っているボランティアみたいな人かなと思ひたら小児科医がいたとか、そういうことを意図的に繰り広げられている市もあるみたいですね。民生委員さん、児童委員さんがいて話をしていたら、これは結構応援が必要なお母さんだな、家庭だなということがわかってきて、ということもあるので、民生委員さん、児童委員さん達はあゝの意味、行政への繋ぎが上手くいく、スムーズにいくというお立場にあるので、そういう方たちがある意味お仕事として入っていただくのも良いかもしれないですね。行政との連携という関係ですね。ありがとうございます。保育園、幼稚園のお立場からはどうでしょうか、たっちの交流ひろば事業については。

○委員

すみません、今の会長さんのお言葉ですけれども、うちの園員さんが東大和でひろばの受け持ちをしているのですけれども、本当に色々な方が来る中で、やっぱりドクターのアドバイスというの

はすごく力強いかなと思いました。助言者がいるということは、やはり有難いなと思うのですが、府中市は臨床心理士さんの配置はありましたでしょうか？そこをちょっとお聞きしたいなと思って。

○事務局

はい。地域子育て支援拠点事業に臨床心理士の配置というのはいません。

○委員

そこで行動観察とかはしてもらえるのでしょうか？

○事務局

ひろばなので、親子で遊んでいただく場なので、行動観察という事はしていません。安全に遊べているのかな、困っていないかなという意味で様子は見てはいますが、行動観察という意味では見てはいません。

○委員

そういうのもあったらいいのかなと思ったので、ちょっと意見として。

○会長

その辺はあれですね、もしやるとしたら連携の範囲かもしれませんね。たっち自体がそういう機能を持つということになると、たっちの目的をもう一回検討し直さないといけないと思うので、連携してそういうことを行うことは可能かと思いますね。

○委員

先ほどお話があったことなのですけれども、幼稚園の方でも保護者が色々な悩みを抱えているのですが、それで保護者と話す機会を定期的に設けてはいるのですけれども、ただ漠然とこう育児に悩みがあったりとかそういったことよりも、身近なことでもテーマがはっきりしている方が保護者が集まりやすい、例えば本当に身近なもので、子どもの叱り方とか、子どもがご飯を食べないとか、兄弟がいる場合の関係とか、そういったすごく身近にある具体的な悩みを持っていらっしゃると思います。ですので、色々なことをテーマとしてやってはいると思うのですが、先ほどご意見があったように、今回は「子どもの叱り方について」というテーマで、専門家の方が子どもに伝えてあげるとか。「叱り方」なんて本当に0歳から小学生くらいまで幅広くなると思うし、小さい子で言えば「ミルクを飲まないのだけれど」とか「好き嫌いが激しいです」とか、そういった身近なことをテーマにしてあげると、そういったことで困っているとか、知りたいな、共有したいなといった保護者の方が多くみられるように思いますので、まあひとつ、人数制限ということもあるので、テーマを決めて、こういったテーマでということであれば、良いのではないかなと思いました。

○会長

はい、ありがとうございました。でも考えてみれば、いろんなスーパーとかそういう風にやって

いますよね。つまり、普通に販売しているだけではなくて、今日は何の日とかね。そこら辺はあまりスーパーと比べてはいけないのかもしれませんが。でも、テーマ設定されていると、外から何をやっているか見えやすいので、私も良いアイデアだなと思って伺いました。

○委員

すみません、実態も知らないで色々聞くのは申し訳ないのですが、たっちとしらとりは規模も違うみたいですし、目的も何か違うような感じもするものですから。たっちの方は、今この状況で沢山の人に来られたら困るのでしょうか、事前予約制でなくて、いつでもいらっしゃいとか、そういう感じでやっていくのが子育てひろばの目的じゃないかなという感じもします。1週間前の事前予約制という話を聞いて、ちょっとそんなものかなと疑問に思ったところがございます。

○会長

はい、ありがとうございます。色々な意見を踏まえて、たっちの方で検討していくということですが、ということであれば、アイデアは幅広く多い方がいいと思うので。まだちょっと時間があるので、今まで話された委員でもいいですし、あとはまだ話されていない委員の方で、もしアイデアがあれば、ないしはうちの課と連携するといいかも等あれば、ご発言頂ければ有難いです。

○委員

そうしましたら、よろしいでしょうか。子育て応援課の方でも、実はいくつか子育てひろばというのを運営しているのですが、その中で新しく本年度からオープンしたひろばがありまして、片町で新しくオープンした「ブックン toy」というひろばがあるのですが、そちらは元々小児科の先生がやっていたひろばでして、なので運動発達相談の日があったりとか、発達に課題を抱える保護者とお子さんのための日があったりとか、先ほど話があったような取り組みを実際に既にやられているひろばなんですね。ですので、その取り組みとかも参考にしながら、一度お話ができる機会というのも設けられるといいのかな、というのはちょっと感じているところなので、他のひろばがどういう取り組みをしているのかとか、そういったところの共有を図れると、色々な所に波及していったらいいのかなというのは、お話を聞いていて思いましたので。ちょっとこちらでもお話をしてみたいなと思っていますところです。

○会長

なるほど。ひろばのネットワークみたいなものができると、その中で今おっしゃったような情報交換とかもできますものね。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

○委員

今日は貴重なご意見を沢山いただき、私も大変勉強になっております。ありがとうございます。先ほどおっしゃったブックン toyのひろばの件なのですが、私共のはぐのひろば事業の中でも、特別な講座としてお招きして、一緒におもちゃの紹介をし合う機会を設けております。このように、私どもの方では、大事な資源というものを一緒に共有できるように連絡相談を取り合いながら、良いものを市民に提供できるような機会が、日頃毎日行える訳ではないのですが、講座とい

うような特別な企画として、講師の方を招いて、市民の方に情報提供ということをしております。ただ、日頃やれていることは、たちさんの交流ひろばと同じで、私どもは府中市の中で4つやっているのですけれども、4つのはぐの中では、お母様方の日常を支えるという視点で、沢山の方にご利用いただいております。ただ、お部屋がとても狭いので、日頃5組前後という少人数の中ですけれども、虐待防止に繋がられるように、おしゃべりをメインとして、日頃の悩みだったりとか、それから情報共有だったりとか、あとはお母様方の顔色だったり目線だったりで、ちょっとお疲れのひどい方への対応としては、直接お母さんにすぐ言う訳ではないのですけれども、母子保健係やたちの方と相談事項の情報共有を日頃からさせていただいて、とても感謝しております。そういった中で、日常を支えるということの大事さを痛感しておりますので、引き続き連携をさせていただければと思います。よろしくお願ひします。

○会長

ありがとうございます。はぐとたちとの交流とかね、いいかもしれないですね。これもアイデアですから。あといかがでしょうか。例えば今の話に直接つながるかわかりませんが、中学生と赤ちゃんとの交流をたちで行うとか。青少年の施策のご担当のお立場から、たちの交流ひろばとの関係で何かアイデアがあれば教えてください。

○委員

たちとの交流ということなのですが、事前予約制としているということで、本来色々なイベントも含めてそうなのですが、手軽に利用できるということが、多くの人を呼び込む一つの理由かなと思っております。そういった意味で、この事前予約制というのは、理由があって事前予約制にしていると思うのですが、そういったところの検討もあってもいいのかなという風には感じております。

○会長

はい、ありがとうございます。では男女共同参画のお立場から、例えば先ほど各委員から色々なテーマを設定してという話がありましたけれども、男性の育児参画というの大きなテーマですけれども、そういった観点でもそれ以外でも構いませんけども、ご意見頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員

今お話ありましたとおり、男性の家事育児参画というのは、当センターの方でも大きな課題だと思っておりまして、パパとママと一緒に参加する講座を組んだりですとか、色々試行錯誤をしている段階なのですが、中々男性の参加を呼び込むというのが難しいところではあります。例えば、これは私がセンターに勤める中で感じる場所なのですが、やはり男性と女性の感覚の違いと言いますか、育児に向かい合う姿勢というのが、女性に関してはオールマイティに目の前に起きたことをどんどんこなしていくという思考に流れるのかなと思うのですが、男性に関しては、お父さんはお風呂に入れるとか、公園に連れていくとか、何かこう役目とかか使命という形での育児参画がまずきかけとなって、その他の育児にも関わっていくというような、入口のようなものがある

ると男性もまた参画しやすいのかなというのが日頃感じているところであるのですけれども。そのようなお父さんの講座で、ある程度テーマを絞って何か出せたりしないかなというふうに、今皆さんのお話を聞きながら頭の中に浮かんできたのですけれども。そのようなところで、もしご意見、男性の家事育児参画でこういうことどうだろうというご意見があれば、ぜひ伺えたらと思います。お願いします。

○会長

はい、ありがとうございます。ブーメランのように委員の皆さんにお話しが返ってきましたが、いかがでしょう。色々アイデアを、実際やってらっしゃるかもしれないので、お願いしたいと思います。どなたからでも。

○委員

はぐの方でお父さんを呼び込む子育てひろばを毎月開催しているのですが、日曜日に予約制でやっているのですけれども、非常に人気が高くて、今コロナで利用人数に制限があつて、非常に少ない5組から10組程度なのですけれども、割と予約が入ります。それで、いざいらしたときにお父様たちはどうかなと思うと、まあ緊張される方もいるのですけれど、こちらがテーマを振って、例えば「おうちで得意な家事は何ですか」とか「お子さんと出かけると楽しいところはどこですか」とか、日常の中でやっているような内容を提供することで、かなりおしゃべりが返ってくるので、割と私たちがリードをして、お子さんを介してお父さんの声をたくさん聴くことで、横の繋がりができているかなというところなのですが。ちょっと今中止をしているところなので、本当は毎月定期的に開催したいという風に望んでおります。

○会長

はい、ありがとうございました。お父さんに対していきなりハードルを高くせず、お父さんの方に寄り添って話を聴くという感じですかね。いかがですか、他の委員の方でお父さん対策と言うと良くないですけど、何かアイデアがあれば。

○委員

発言よろしいですか、お父さんのことなのですが。以前に比べると、幼稚園の行事でもお父さんの参加率は今とても高くなってきていて、平日の行事でもお父さんが会社を半休したりして参加するケースがとても増えてきています。ですので、かなり子育てに協力的な部分は見えてきているのではないかなと私は思っています。ただ、一つの義務的なものでやっているケースが多いみたいで、いざお父さんと子どもとそういった家庭がいくつか集まると、傍観してしまうようなケースが多々あるのですね。それは子どもとの遊び不足ではないかなと思います。ですので、お父さんと親子で遊ぶ機会と言うのかな、親子遊び教室みたいなものがあつて、しかもお父さんだけ、そして他のお父さん達もそこへ来ると、お父さん同士のまずコミュニケーション、お父さん同士のその場の友達関係っていうものができる、まあお母さんは得意なのですけれども、お父さんはなかなか他の子育てに悩んでいるお父さんとの情報交換というのはできないと思うので、そういった場面があれば、「そんなこともやっているんだ」、「そんなこともできるんだ」というのを耳にするだけでも、色々

な事、家事のお手伝いのハードルが低くなるのではないかなと。奥さんに言われてやるのではなくて、やっぱり自分で気が付いて動く機会を作ってあげる、それが大事ではないかなと思うのですね。そのためには、とにかく親子で遊ぶこと、お父さんが親子で遊ぶノウハウとか、自分が幼少期にこんな事をして遊んだよと思い出して一緒に遊べる機会とか、そういったことがあると、まず子どもとの接点が近くなって、同じ子育てをするお父さん達とのコミュニケーションもとれて、情報が入ってきて、それが家庭の中での育児の支援とか色々な行動にプラスになるのではないかなと思いました。

○会長

はい、ありがとうございました。そろそろ時間になるのですけども、最後にたちのご担当の方から、おそらくたちでもお父さんに焦点を当てた取り組みとかを既にされているのではないかと想像するのですけれども。その辺はいかがでしょうか。

○事務局

資料2の方で説明しそびれてしまったのですけれども、基本お父さん方の来館というのはとても多く、土日はとても多いです。現在の予約制になっても、同伴の方は2名入れるということで、平日はお母さんとお子さんが多いのですけれど、やはり土日になるとお父さんとお母さんとお子さんという組み合わせが多くて、大変賑やかになります。お父さんだけでお子さんを連れてこられる方というの、以前から多くなっている傾向があります。あとはですね、「パパと遊ぼう」という、一応“講座”という名前なのですけど、ほぼ“交流会”というようなものを開設当初からやっています。年に2回、1歳児のお子さんとお父さんとで一緒に参加してもらうもので、大体が親子遊び、一緒にお子さんと遊んでもらう時間と、あとお父さんの交流というような内容構成になっています。以前は、割と日常的にお子さんに関わったことの無いようなお父さんが多くて、一緒にひろばに来て、お父さんとお子さんだけになるとお子さんが泣いてしまって、というようなことが多かったのですけれど。ここ数年は、申し込みは葉書で女性の字の様で、お母さんが書かれているみたいな方がほとんどなのですけれども、実際参加してみると、お子さんがお父さんにすごく慣れている感じで、お父さんで泣いている様なお子さんはいなくて、すごく一緒に遊んで、あと特徴的なのは、お父さん同士の交流がすごく活発で、参加動機というところでも、「他のお父さんと話がしてみたいです」というような記載がすごく見られるようになってきているのがこのところの特徴かなと思います。そこでまたお父さん同士が繋がったり、普段のひろばの中でも、お父さん同士でお話されている様子が見られたりというようなことがあります。回数はちょっと少ないかなとは思っているのですけれども、お父さんの講座も続けていく予定です。

○会長

はい、ありがとうございました。もう根っこは終わりだということなので。それを根っこにしなから、足掛かりにしなから、よりどう発展させていくのかというのは、次の時にその後の取り組みをお聞かせいただきながら、どんな発展方向があるのか、委員の皆さんにも考えておいて頂けるといいのかもしれないですね。では、議題は一通りこれで終わりますが、事務局の方から連絡等あればお願いします。

○事務局

それでは事務局より、次回の本会議の開催予定についてご案内させていただきます。次回の本会議の開催については、次第に記載しておりますとおり、令和4年2月頃に開催する予定です。委員の皆様への通知は約1ヶ月前を予定しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○会長

はい、ありがとうございました。遠隔の会議でしたけれども、紙よりは100倍いいですね、皆さん。色々なご意見を頂いて、遠隔の会議の設定をしていただいた事務局の方達にもお礼を言いたいと思います。では、本日はこれで終わりたいと思います。お疲れさまでした。